



# STORY 元プロサイクリストのワイン物語



## VISION 理念(ワインにける情熱)

- I. 東御市(旧北御牧村)八重原の台地に芽生えたワイン用ぶどう栽培のシクロヴィンヤード。ワイン造りを通して、青い空、眩い太陽、鳥のさえずり、のどかな田園、緑豊かな美しい農村環境を守り受け継ぐことを目指します。
- II. お客様、地域の方々、ご支援・ご協力をして下さる全ての皆様と、グリーンツーリズムなど地域活性化のための連携を構築し、より良いハーモニーを奏でることにより、テロワールを映した高品質なワイン造りを目指し日本ワイン文化の醸成に貢献します。
- III. 手間を惜しまず、身体に優しい葡萄栽培を行い自然との共生を図り、お飲みいただいた皆様に幸福の1ページを綴っていただけるワイン造りを目指します。

## PROLOGUE プロローグ

2012年・初頭、約25年間走った競輪選手を引退。その間、多くの皆様に支えられ、「地球を15周!」。自転車トラック競技の個人追い抜き(パシュート)日本一など幾度の日本記録の更新やワールドカップ銀メダル獲得、アジア選手権優勝など自転車競技に打ち込む。

## PASSION ワインへの情熱

ワイン造りを志し、同年・春、長野県へ移住。長野県農業大学校研修部(小諸)にて農業基礎を学び始める。2013年・春、東御市に移住して、玉村豊男氏(ヴィラデストワイ

ナリー創業時代代表)へ師事し、ワイン造りについて学ぶ。2014年・正月から同市内千曲川左岸八重原台地で開墾に着手。同年・春にブドウの苗木約1200本を定植する。(ホームストレッチ・メイン畑)

現在(2018年2月)、2.2haに約4,300本のブドウ樹を栽培している。

栽培品種:アルモノワール(ツヴァイケルトレーベ×カベルネソーヴィニヨンの交配種)、メルロー、ピノノワール、シャルドネ、ソーヴィニヨン・ブランの5品種を栽培。

2015年ヴィンテージより、ソーヴィニヨン・ブランをリュードヴァンさんで委託醸造(自園のブドウを使用、指導を受けながら仕込みを行い製造技術を修得)。アルモノワール、メルローを伊那ワイン工房さんで委託醸造。

同年、長野県工業技術総合センター・しあわせ信州食品開発センターにて、自園産ブドウで研究試験醸造に参加する(翌年も同様)。

2016年ヴィンテージ、「パシュート アルモノワール」、「パシュート シャルドネ」、「パシュート ソーヴィニヨン・ブラン」、「アマダメルロー」の計4品種をワインとして販売中(一部完売いたしております)。

「元自転車乗りにできるのか?」、「無理だよ、やめておいた方が…」、そんな囁きもありましたが。

園主は元プロアスリート、自転車競技で日本一。「第二の人生(余生)はワイン造り…」?違います。日本代表選手時代の情熱をそのままに第二の挑戦がワイン造りです。

熱く強い情熱があれば不可能は、やがて可能へと変化。全ての常識は非常識から生まれる。

シクロの畑は多くが作業性の悪い傾斜地であり、経済性や高齢化などを理由に耕作放棄された雑木の生い茂る荒廃した農地

でした(水捌けが良く、日当たりが抜群なワイン用ブドウには絶好の土地)。

自ら雑木を切り、重機を動かし、石を拾い、畑を再生し、仲間と共に苗木を植えて、ようやくブドウは少しずつ実をつけ始めております。当園産ブドウのワインは現在、委託醸造していただいておりますが、ブドウの良さが認められ「ミシュランガイド」で☆を獲得する飲食店様にも採用(2017年・秋)されるなど、多くの皆様にご支持をいただきつつあります。

2017年・11月、以下の発起人を得てシクロヴィンヤードを法人化(名称「シクロヴィンヤード株式会社」)した。

- ◆飯島 規之(前身の個人経営シクロヴィンヤード)
- ◆玉村 豊男(アルカンヴィーニユ代表・前ヴィラデストワイナリー代表)
- ◆菅谷 惣(菅谷ファーム代表、主に野菜栽培農家)
- ◆片桐 恵夫(やまか農園代表、りんご栽培農家)

## スタートの合図は、もうまもなくです

2018年、ワイナリー(自社醸造施設)建設予定です。いよいよ、プロローグが終わり、第1章、スタートの時を迎えます。皆様、よろしくお願ひ申し上げます。

## ENVIRONMENT 環境

シクロヴィンヤードは長野県東御市を南北に2分し東西に流れる千曲川左岸(南岸、旧北御牧村)に位置する標高660m(スカイツリーより少し高い)ほどにあるテーブル状の台地の南東の縁にあります。

## 強い粘土の土壌

長野県千曲川左岸の八重原台地はキメの細かい非常に強い粘土質の土壌が特徴です。土地の個性を映したストラクチャーのしっかりとしたワイン葡萄を育みます。

## WEATHER すぐれた気象環境

### 豊富な日照

当園の大部分は南東向きの傾斜地に位置します。畝(列)の多くは南北の傾斜に合わせた垣根式の栽培を採用しております。(植物を育てる上で南北方向に列を作ることは日照ムラを少なくするために重要な要素と云われます。またワイン用ブドウでは垣根式が有利と云われております)(北半球では南東の傾斜地が植物にとって最良の環境と云われます。傾斜地の作業はたいへんですが日照量は太陽との仰角に比例して増えるので南に向く傾斜地は多くの太陽の恵みを受取る事ができます)

### 大きな寒暖差

北に浅間山連山、南に蓼科山の間際に位置する東御市八重原台地は大きな寒暖差のある長野県内でも際立って大きな昼夜の温度差があります。(昼夜の温度差は美味しい果物を採るマストな条件と云われます)このような土地は春の遅い霜や秋の早い霜の恐れなどたいへんリスクの高いところですが、このように厳しい環境は高品位なブドウを育みます。

### 爽やかな風、少ない雨

内陸性気候(長野県東信地域は本州で太平洋からも日本海からも最も海から離れた地域)で年間降水量が少なく晴天率が高く、また山の多い起伏のある地形は爽やかな風が吹きそよぎブドウを病気から守ります。このように良質なワイン用ブドウが育つ条件を兼ね備えておりますヴィンヤードで化学的な肥料・殺虫剤・除草剤などを使わずに皆様により良いワインをお届けするために手間を惜しまず栽培しております。もちろん、現在、シクロヴィンヤードワインは自園産・ワイン専用種ぶどう100%です。

